1　八乙女城

「康平の昔（康平五年〈一〇六二〉）、安倍貞任は東北にりっぱな国を造って治めていた。ところが突然源頼義、源義家が東北征伐におしよせた。戦に強い安倍貞任はどこでも源軍をやぶった。そのときの各軍の陣地は清原氏は金洗が城（今の金沢の柵）、安倍貞任は神宮寺楊の森鶴が城（今の松山姫神山）、二番には長野の八乙女城（今の長野八乙女公園当時茶臼山とも記されている）があり、絶対不落の構えであった。源義家は鎧見内幕林に陣をとり、ここから貞任を攻撃した。そして幕林の陣内には源氏の内神八幡神社をまつり、源氏の戦捷を祈り長い対陣に入った」この伝説は筆写しの記録　安倍合戦記又は安倍合戦の次第、又は神社仏閣縁記等に書き残されたものが処々にあり内容も大同小異である。更にそれがあたかも事実であるように、それを裏づける伝説が口碑となって、八乙女山（茶臼山）の現地に即して伝えられている。